

～家庭でできる温暖化対策～

◆効果的な温暖化対策は家庭によって異なります

家庭でできる最も効果的な温暖化対策とは何でしょうか。家庭でのエネルギー消費量は、ライフスタイルや地域によって異なります。したがって、この対策が一番効果的と断定するのは難しいので、各家庭では、まず身近なことから取り組む、ということが重要です。

地球環境研究センターに設置されている温室効果ガスインベントリオフィスでは、家庭からの用途別の二酸化炭素排出量を算定しています。2013年の結果をみると、照明・家電製品など(36.2%)、自家用自動車(23.7%)、お風呂などの給湯(12.8%)、暖房(12.4%)、家庭ごみの処分にかかるエネルギー(5.6%)となります。照明・家電製品、自動車、給湯、冷暖房、ごみに関して、節電や省エネ、ごみ排出量の減量などの対策が不可欠であることは言うまでもありません。



◆家庭でできる省エネ

二酸化炭素削減効果の大きい対策として、自家用車関連の対策^{*1}や、使用していない機器の電源プラグをこまめに抜くといった待機電力の削減が挙げられます。電源プラグの抜き差しが面倒な場合は、節電タップなどを利用すると楽に管理できます。自家用車に関してはエコドライブを心がけることはもちろん、近所へ出かける際は徒歩や自転車、遠方へは電車などの公共交通機関を利用することで、エネルギー消費量を抑えられます。このようにエコな電気の使い方だけでなく、エネルギー消費量の少ない行動に切り替えるといったタイプの対策も非常に効果的です。

2001年に環境省が作成した「家庭でできる10の温暖化対策」を見てみましょう。各家庭で10項目を完全実施すると、二酸化炭素排出量を年間13%削減し、約4万円の家計節約にもなると推定されています。

^{*1} 「広報なか」平成25年12月号で紹介

～家庭でできる10の温暖化対策～

- ①冷房を1℃高く、暖房を1℃低く設定
- ②週2日往復8キロの車の運転をやめる
- ③アイドリングを1日5分ストップ
- ④待機電力を90%削減する
- ⑤家族全員がシャワーを1日1分減らす
- ⑥風呂の残り湯を洗濯に使いまわす
- ⑦炊飯ジャーの保温をやめる
- ⑧家族が同じ部屋で団らんし、暖房と照明を2割減らす
- ⑨買い物袋を持ち歩き、包装の簡単な野菜を選ぶ
- ⑩番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす



効果の大きい対策として、省エネ製品の購入・買替えと住宅に関する温暖化対策があります。電気製品は年々エネルギー効率が改善されています。製品を選ぶ際は、省エネラベルに注目してください。1年間の電気使用量と電気料金の目安が示されており、家計へのメリットもわかる表示になっています。住宅についてですが、リフォームによって窓ガラス、サッシを交換すると断熱性、気密性が大幅に向上し、暖房や冷房をそれほど入れなくても快適に暮らせるようになります^{*2}。

^{*2} 「広報なか」平成26年10月号で紹介

◆こんな温暖化対策も

みなさんは食品を購入するとき、何に注目しますか？おそらく、確認するのは値段、質、産地などだと思います。そのなかで、産地の確認は安心・安全やおいしさだけでなく、省エネの観点からも重要です。遠方で作られた食材（特に外国）の輸送に大きなエネルギーを要します*³。また、旬でない時期でもビニールハウスなどを利用した栽培が可能です。その場合生産に多くのエネルギーを要します。地産地消、旬産旬消という言葉がありますが、地元で露地栽培される『旬』の食材を利用することは、家庭の省エネに見かけ上は現れませんが、家庭で取り組める温暖化対策のひとつなのです。

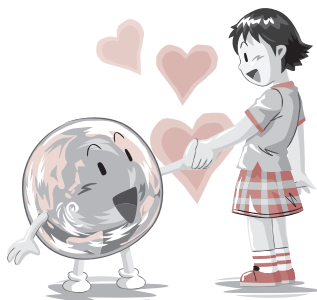
*³ 「広報なか」平成27年4月号で紹介



◆温暖化対策について考えてみよう

地球温暖化が深刻化し、目に見える甚大な影響が出始めてからでは遅いのです。家庭から出る温室効果ガス排出量の大幅な削減が求められることは必須です。まずは環境家計簿などを利用し、自分の生活におけるエネルギー消費量を把握することで、対応すべき問題点が見つかるはずです。そして温暖化対策のうち自分の家庭ですぐに取り組める対策はこれ、1年以内に取り組める対策はこれ、といったように時系列的な視点をふまえて対策を整理し、すぐに取り組める対策から積極的に取り組みましょう。

温暖化対策について、「自分には関係ない」、「自分1人でできることなんてない」、「自分1人がやったところで、どうなるものでもない」と思っていないですか。地球温暖化防止について、そういった意識は禁物です。温暖化対策を進めていくためには、一人ひとりの意識の改革と、そして何より実際に行動することが大切です。



わたしたちにできる地球温暖化防止の方法は必ずあります。まずは自分の周りを見渡してください。そして、地球温暖化について知ること、これまで気付かなかった方法にも気付くことができます。地球温暖化防止のために、一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、集まれば大きな力になります。逆に言えば、一人ひとりの行動が大きな問題に成長し、地球温暖化を深刻化させてしまうことになるのです。

環境TOPIX

◆地球温暖化防止に向けた国際的な動き

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告では、このまま有効な対策が取られずに今のペースで温室効果ガス排出が続けば、今世紀末の世界の平均地上気温は最大4.8℃、海面水位は同82cmに達し、ひとびとの健康や生態系に深刻で広範囲にわたる後戻りできない影響が出る恐れが高まり、被害を軽減する適応策にも限界が出ると予測しました。その上で、気温上昇を抑えるために多様な道筋があるとして、各国政府に迅速な対応を迫りました。

国際社会は、2015年末パリで開催されるCOP21（気候変動枠組条約終結国会議）で、2020年以降の温室効果ガス排出削減の新枠組み採択を目指しています。新枠組みは米国を除く先進国だけが削減義務を負った京都議定書とは異なり、すべての国が自主的に削減目的を掲げることになっています。しかし、各国の対応はまちまちです。削減に積極的なEU、消極的な中国（排出量世界1位）や、アメリカ（排出量世界2位）、日本、インドなどのアジア諸国、アフリカ諸国の間で意見が対立しています。各国はICPP第4次報告書を基に、産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑える長期目標で合意しているのですが、このままでは「2℃目標」の実現は難しい状況です。